

【特集 I 報告 1】

山口県「長州五傑の顕彰碑」を訪ねて！



顕彰碑の設置場所 ①山口市秋穂・二島中学校 ②山口大学

『長州五傑（長州ファイブ）』とは、1863年長州藩からヨーロッパに派遣され、ロンドン大学などに留学した井上聞多（馨）、遠藤謹助、山尾庸三、伊藤俊輔（博文）、野村弥吉（井上勝）の5名の若者たちである。ロンドン大学に長州ファイブの偉業を讃えて「顕彰碑」が建てられた。しかし、故郷の山口県には顕彰碑がなかった。ロンドン大学の顕彰碑を知った西日本国際交流推進協会が「地元で顕彰碑を建てるべき！」と運動した結果、ようやく山尾庸三生家跡の近くに建てられた。

①以前は山尾生家跡の近くに「顕彰碑」があった。太陽光発電会社を建てたため、最初は新山口駅に顕彰碑が設置できない。その後、山尾庸三氏の出身地として山口市秋穂・二島中学校に移転し、顕彰碑を建てた。

②山口大学キャンパスに顕彰碑がある。山口大学とロンドン大学の学術交流協定締結を記念して、顕彰碑を建てた。

【長州ファイブの当時の年齢】

井上 勝20才（鉄道の父）、伊藤博文22才（内閣の父）、山尾庸三26才（工学の父）、遠藤謹助27才（造幣の父）、井上 馨28才（外交の父）であった。

【参考資料】

「長州ファイブ」に関するネット

日本聾史学会会長 内田博幸

信濃聾史だより（63）より転載